

緑色賛歌写真集

横浜鎌倉の四季

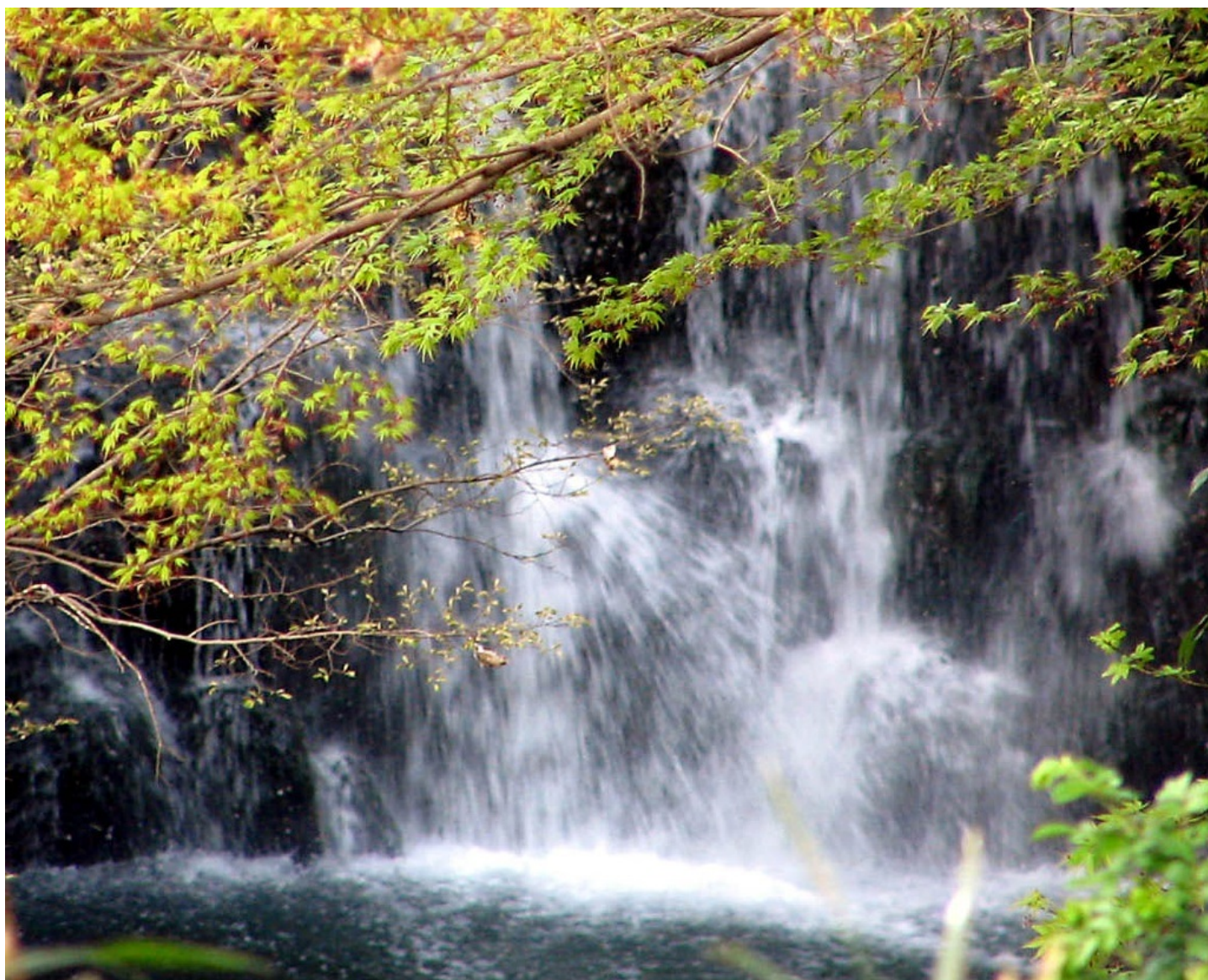
のんさん



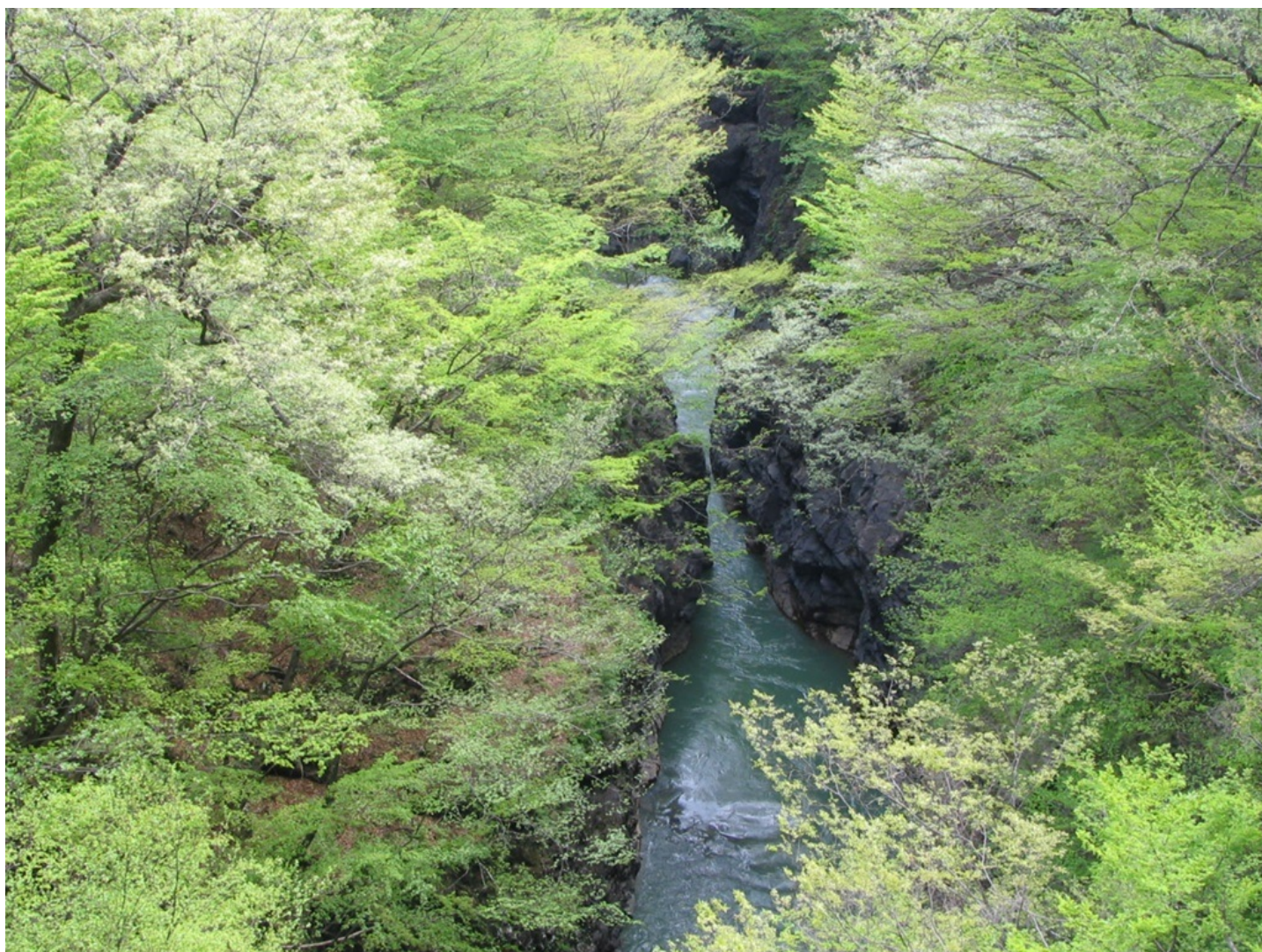
風薫る5月木々が一斉に芽吹きだしました。木々の芽生える新緑の初々しい黄緑色、素晴らしい色です。初夏の強い日差しを浴びて、木々は輝きます。一般的に落葉樹の活動は5月から11月までの6ヶ月間の短い活動を開始します。



初夏の青空の下、クスノキの花芽ができていました。クスノキは冬でも葉を落とさない、常緑樹です。新芽ができる前に落葉し、その後一斉に芽吹きます。芽吹きと同時に花芽をつけます。葉と花芽を摘み取って匂いを嗅ぐと樟脳の爽やかな香りがします。



谷川にも新緑の芽生えの季節がやってきました。黄緑色のカエデの芽生えも、11月には真っ赤に紅葉します。芽生えの時期のかえでもきれいです。



ハッ場ダム建設でゆれた、吾妻峡にも新緑の芽生えの季節がやってきました。新緑と吾妻峡の清流が美しいです。新緑の頃の山の色は黄緑、緑、深緑、浅黄色・・・緑色のオンパレードです。



端午の節句に柏餅を食べる地方も多いですね。柏の葉は落葉樹ですが、次の若葉が出るまで前の葉が残ります。そのために、代が絶えない縁起の良い植物として端午の節句によく用いられます。手の形をしたカシワの葉、青空ににあいますね。



奈良平城宮東院庭園は奈良時代の遺構から発掘再現された施設です。庭園は平安時代の庭園に似ており、奈良時代には平安時代の形式に似た庭園が造られていることがわかります。また庭園内にはショウブの花やカエデが植えられています。これらの植物も発掘された種子や花粉をもとに再現されています。カエデが初夏の日差しを浴びて、萌えるような新緑に輝いていました。奈良時代も同じように新緑が輝いていたことでしょう。参照[平城宮東院庭園](#)

[平城宮跡東院庭園周辺地図（赤＋が東院庭園）](#)



初夏の芽生えの頃法隆寺境内を歩いていると、真っ赤なカエデの実に出逢いました。新緑の若葉を背景に赤い実がとてもきれいです。こんな出逢いは初夏の楽しみです。参照[斑鳩法隆寺花散歩](#)
[奈良県斑鳩法隆寺周辺地図](#)



横浜市金沢区にある称名寺には金沢文庫があります。鎌倉時代の図書館です。称名寺境内裏は市民の森として開放されています。その草原にタンポポの花が咲いていました。初夏の緑の草原は気持ちが良いです。参照[金沢文庫海の公園](#)

[称名寺周辺地図](#)



初夏横浜港の見える丘公園を散策していると、ツルニチニチソウの若葉に出逢いました。みずみずしい緑色が爽やかです。ツルニチニチソウの深い青色の花も初夏の訪れを祝っているようです。参照[港の見える丘公園・横浜バラ園](#)
[港の見える丘公園周辺地図](#)



初夏の鎌倉は百花繚乱の季節です。初夏の鎌倉を散策するとボタンの花や、シャクナゲなども美しいですが、鎌倉長谷寺のカエデの若葉がとても印象的でした。仏様も新緑を喜んでいるようですね。参照[鎌倉花の長谷寺](#)
[鎌倉長谷寺地図](#)



初夏標高2171mの草津白根山にも雪解けの季節がやってきました。山腹にはまだ残雪が見られます。白根山の火口湖を覗くと翡翠色のきれいな湖水が見えます。湖水はきれいです、強酸性の硫酸を含んだ湖水です。近づくことはできません。参照[草津白根火山と温泉](#)
[白根火山周辺地図](#)



横浜公園の白いチューリップが、朝日に輝いて、薄緑色に見えました。チューリップの花も葉から進化したのでしょうか？白いチューリップにも緑色の名残が見えるようですね。美しく爽やかな色です。

[JR関内駅周辺地図](#)



北鎌倉明月院を散策していると、竹林の下のアジサイの花が色づいていました。アジサイの色づく部分はガクというそうです。ガクをよく見ると、葉の名残が見えるようですね。ガク（アジサイの花）が薄い緑色から、青く色づいてきました。この時期のアジサイの色はきれいですね。竹林も爽やかな緑です。参照[鎌倉明月院](#)
[北鎌倉明月院周辺地図](#)



初夏の頃は心がうきうきします。緑が美しく、花々も咲き誇ります。新緑のドウダンツツジの植え込みに白くかわいらしい花が咲いていました。こんなかわいらしい形の花がどうしてできるのでしょうか？



雨上がりの朝、ハスの若葉の上にきれいな水玉が光っていました。一般的に植物の葉などは水をはじく性質があります。特にハスの葉は泥の中から成長し、きれいな葉や花をつけます。ハスの葉には、細かな棘があり棘の上で水玉を転がし、自らを洗浄しているようです。これをロータス効果と呼んでいます。素晴らしい能力ですね。参照[ハス・スイレン花旅](#)



ザクロの花の咲く初夏、初夏の太陽は強く輝きます。ザクロの新緑は鮮やかな緑色です。新緑の中に赤く輝くザクロの花の朱色は目に鮮烈です。ザクロの花が咲くと、真夏はもうすぐです。

ソテツの葉のらせん状の芽生え



ソテツは温暖な地域に生息する植物です。初夏ソテツの芽生えが始まります。ソテツの芽生えは葉がらせん状に丸まり、少しずつ伸びていきます。見事な植物の造形とその後の緑色の変化に驚かされます。

北アルプスの初夏の新緑



北アルプスに初夏がやってきました。長い冬から開放され、木々や草木は緑に輝きます。高い峰々はまだ残雪が残ります。山々の残雪と新緑美しいです。参照[白馬塩の道を歩く](#)
[白馬町松川周辺地図](#)

青緑色のホノルル港の海と魚影



ハワイの海の色は青色ですが、沿岸部では青緑色になります。これは植物プランクトンのおかげです。植物プランクトンが多い海は豊かな海で、魚群も濃くなります。参照[オアフの色図鑑](#)
[ホノルル周辺地図](#)



釧路湿原にタンチョウヅルのつがいがありました。緑の湿原の意味が良く理解されなかった時期、釧路湿原は乱開発が行われました。釧路湿原一時はタンチョウヅルの生育も危ぶまれましたが、現在は釧路湿原は国立公園として保護されタンチョウヅルの生育数も増えています。



北鎌倉の東慶寺境内を歩いていると、初夏の日差しの中青梅が実っていました。冬の頃咲いていたウメの花が季節が変わり、ウメの実になったようです。緑の木々の生産の恩恵でしょうか、自然の恩恵でしょうか？植物の生産、自然の恵みに感謝します。参照[鎌倉東慶寺花散歩](#)
[北鎌倉東慶寺周辺地図](#)



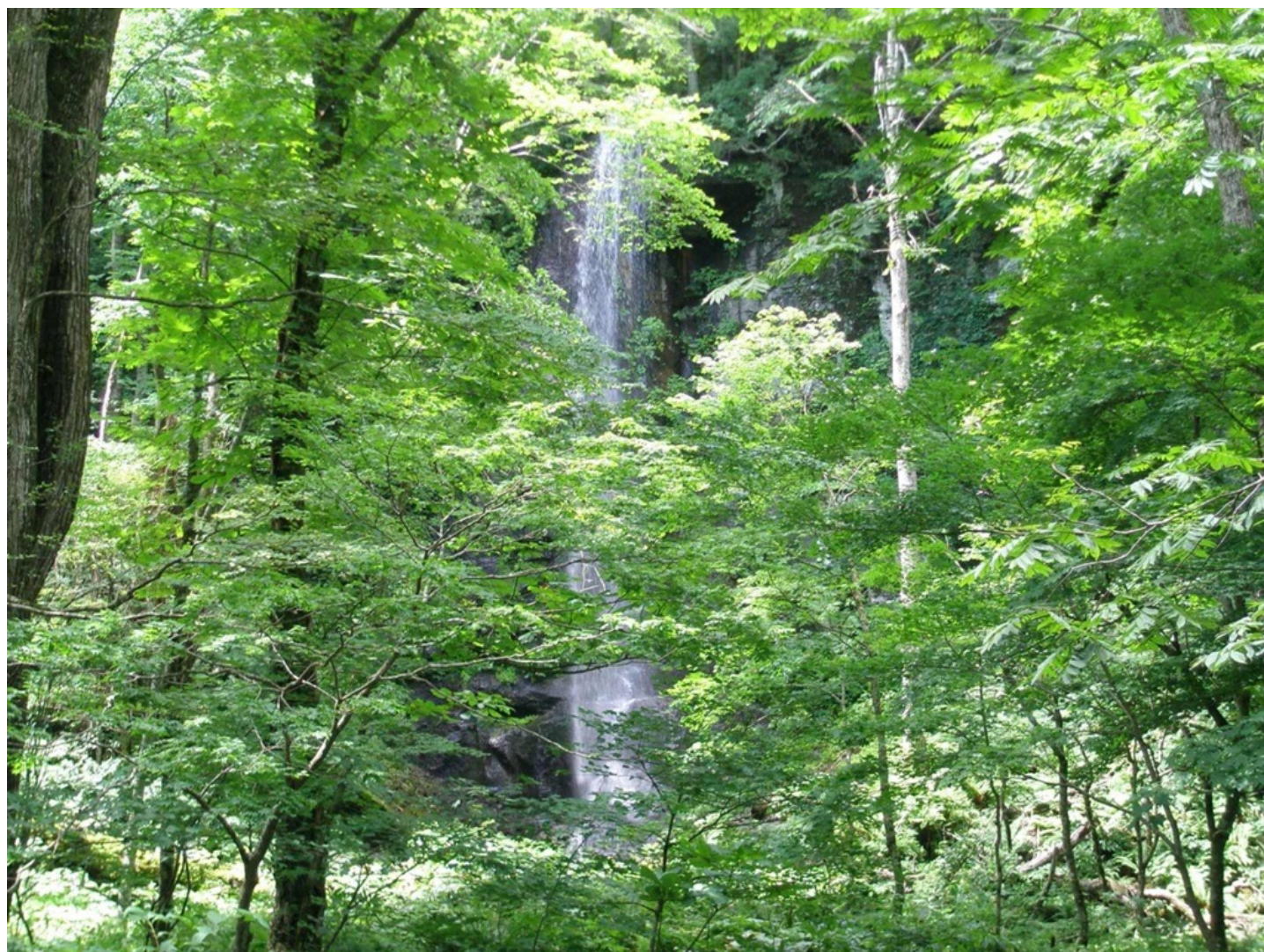
ソウル景福宮は朝鮮王朝時代に造られた、美しい王宮です。王宮の彩色は赤色と緑色で奈良平城宮の色の組み合わせと同じでした。日本と大陸との深い文化の交流と繋がりを感じさせます。参

照[ソウル景福宮花散歩](#)

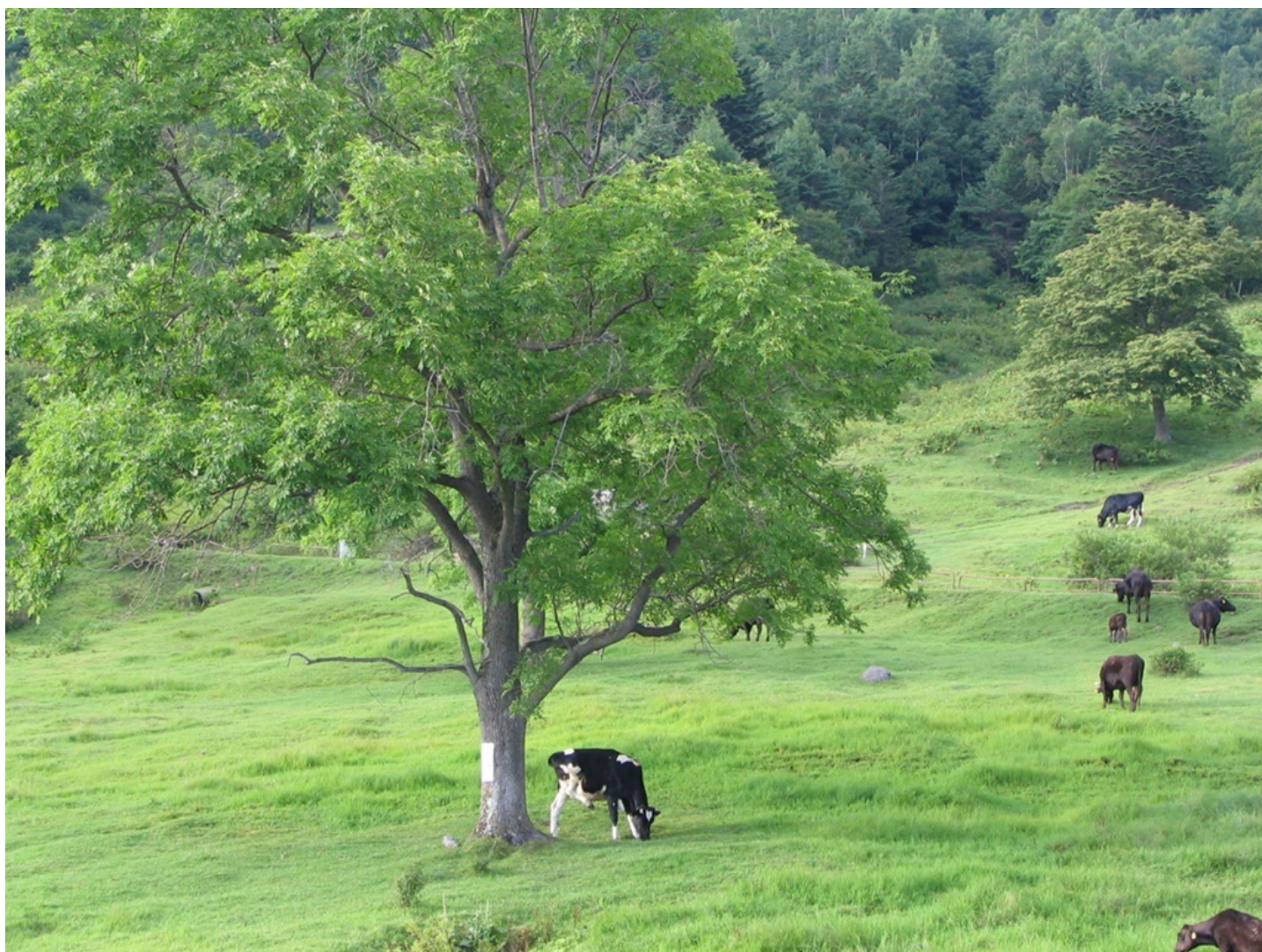
[ソウル駅から景福宮駅までの乗り換え地図](#)



北海道央にある、富良野や美瑛は年間を通して晴天率が高い地域です。夏美瑛の丘は緑色に染まります。夏の美瑛の丘と青空は似あいます。参照[富良野美瑛の色図鑑](#)
[美瑛町水沢湖周辺地図](#)



青森県奥入瀬溪流は人気の散策路です。奥入瀬溪流の水源は十和田湖のきれいな水です。奥入瀬溪流を散策するとたくさんの滝や緑の木々に心が癒されます。緑の植物と、きれいな水は私たちに活力と元気、そして癒しを与えてくれます。参照[奥入瀬花散歩](#)
[白布の滝周辺地図](#)



信州山田牧場に放牧牛がいました。現在では放牧牛は貴重です。肥満した霜降り肉を好む現代人には向いていないようですが、健康な放牧牛の新鮮な乳や肉は確かな味がします。牛の身体は緑色植物の合成したタンパク質で作られます。

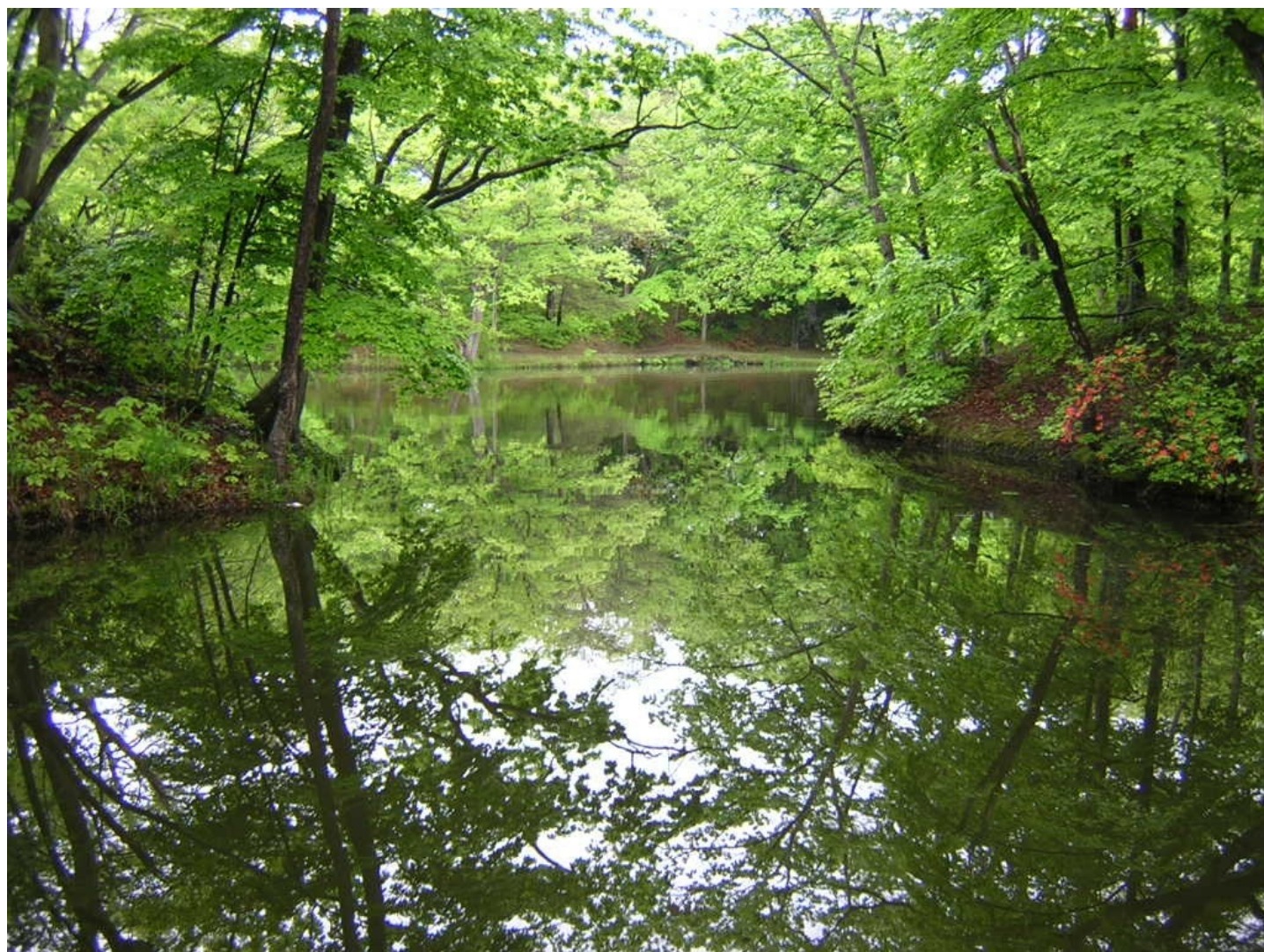
[山田牧場周辺地図](#)



タブノキは日本を代表する照葉樹の一つです。神社の森に多く見られ、夏の強い日差しを遮ってくれます。夏の青空に輝いて見える美しい緑色の葉を見るとなぜか心が休まります。私たちの歴史を見守ってきた木だからでしょうか。



シダの葉が夏の日差しを浴びて輝いて見えます。シダの葉の裏からすかして見ると、シダの細かな孢子のうが見えます。シダ植物は孢子で増えます。植物のもつ生命力を感じさせます。涼しげな緑色がしばし暑さを忘れさせてくれます。



夏の函館大沼公園の緑色は素晴らしいです。函館大沼公園には大沼、小沼をはじめとするたくさんの湖沼が散在します。駒ヶ岳の噴火によってせき止められてできた、大沼公園の数多くの湖沼の中を散策すると、木々の緑と湖沼に反射する緑に飲み込まれそうです。特にミズナラの緑は美しく心を癒してくれます。参照[函館大沼の色図鑑](#)

[大沼公園散策路周辺地図](#)



ツタの葉の間に緑色のコガネムシがいました。コガネムシにも様々な色がありますが、緑色のコガネムシもきれいですね。コガネムシのこの緑色の身体は、保護色になっているようですね。古代エジプトではスカラベと呼ばれ復活の象徴でした。



夏の日本庭園は涼しげです。京都嵯峨野にある大河内山荘を散策していると、夏でありながらとても涼しげでした。青カエデの木陰に、柔らかく繊細なコケが密生しています。コケから蒸発する気化熱でしょうか、緑の木陰はとても涼しく感じました。

[嵯峨野大河内山荘周辺地図](#)



奥入瀬溪流に朽木がありました。朽木は生命を終えています、朽木にはミズゴケが育っています。またミズゴケを温床に新たな植物の芽生えが見えます。朽木の生命は終わっていますが、朽木が新たな生命の成長に繋がっているようですね。一つの生命の死は、新たな生命のスタートとなるのかもしれませんが。そう思うとなんだか気が楽になりました。



朝霧の立ち込める林の近くにヒマワリの花が咲いていました。朝霧は晴れの兆し、朝日とともに、夏の日が照らすはずです。ヒマワリの花が朝日を待っているようです。ヒマワリの生命力あふれる色と、命の元である緑色に力づけられます。



初秋まだ残暑を感じる季節、イガグリの緑色の実が鮮やかに見えました。まだ暑いですが、秋はもうすぐだよとっているように思えました。栗が大きく実り、割れる頃秋が深まります。



大英博物館に青緑色の宝石をちりばめた見事なペンダントがありました。この青緑色の宝石ずいぶん高価なものでしょうが、これも地球の贈り物ですね。



秋の収穫の時期は楽しみです。カボチャの緑色も黄色く変わってきました。色が変わるとカボチャはおいしくなります。中を割れば、オレンジ色になっているはずです。緑の植物が色づいてくる秋はおいしい季節です。参照[黄色い実図鑑](#)



オキナワスズメウリの赤い実はかわいいです。秋オキナワスズメウリの緑色の実は涼しくなると赤く変色します。植物の実が赤くなるのは、植物の「食べていいよ」というサインです。参照[赤い実図鑑](#)



初秋の北海道の牧場に牧草ロールが転がっていました。この牧草ロールは夏から秋に牧草を刈り取りとったものです。牧草ロールは冬の間の牛たちの餌になります。この牧草ロールを見ると植物の恵みを感じます。この牧草ロールが牛乳や牛肉に変わると思うと不思議ですね。



寒い冬の朝、植物の葉に白い霜がついていました。とても冷たそうです。こんな霜がついても、枯れない植物もあるんですね。その姿に心をうたれます。



緑色のコケの上にツバキの花が一輪落ちていました。コケは一年中緑を保ちます。日本の気候にも適した植物です。最近では芝生の庭園が多いですが、コケの緑もいいですね。赤い椿の花が映えます。



早春海を臨む公園にタンポポの花が咲いていました。枯れた草原も緑を取り戻してきたようです。これからまた緑の濃い季節が始まります。私たち生物は緑色の植物の恩恵で生きています。その生産とありがたさを忘れないようにしたいですね。参照[緑色図鑑](#)

あとがき

写真集「緑色賛歌写真集」を最後まで見ていただき、感謝いたします。緑色賛歌写真集満足いただけたでしょうか？もしお気に入りの写真などありましたら、各ページにあるお気に入りに登録☆（パブユーザー登録でできます）を押していただけると幸いです。ご意見、感想などもいただけたらと、今後の編集の参考にもなり、ありがたいです。ご意見、感想などは各ページのコメント欄に記入下さい。ありがとうございました。